

經濟叢論 每月一日發行
 第四十八卷第三號 昭和十四年三月一日發行
 大正四年六月二十一日第三號東京場四

會學濟經學大國帝都京

經濟叢論

號三第 卷(十四第)
 月三年四十四和昭

論叢

政府支出と所得増加……………文學博士 高田保馬
 横井小楠の經濟思想……………經濟學博士 本庄榮治郎
 特殊リンク制の諸問題……………經濟學博士 谷口吉彦

時論

支那に於ける門戶開放……………法學博士 末廣重雄
 増稅案を論ず……………經濟學博士 汐見三郎

研究

神代に現はれし日本の創造の型……………經濟學士 中川與之助
 公正價格の意義……………經濟學士 中谷實
 靜態的貨幣理論と動態的貨幣理論……………經濟學士 服部新一
 複式簿記法の形成過程に就いて……………經濟學士 岡本愛次

說苑

ル・プリーの經濟發達階段說……………經濟學士 宮本又次

附錄

彙報
 外國雜誌論題

(禁轉載)

經濟學部

○教授本庄榮治郎氏は一月十七日本學附屬圖書館長に補せられた。

○助教柴田敬氏は二月一日經濟學博士の學位を授與せられた。

○二月十日教授高田保馬氏は經濟學部長を免ぜられ、教授石川興二氏學部長に補せられた。

○同日教授沙見三郎氏は本學評議員に補せられた。

經濟學會

○一月例会 一月三十一日(火)午後六時より樂友會館に於いて開催、次の二つの報告が行はれた。

一、正常利子概念の檢討

青山秀夫 助手

要旨——近時景氣變動の貨幣的側面が重要視されるに到ると共に、ウイタセルの正常利子概念を中心とする貨幣理論が注意されるに到つたが、氏によれば、此の概念要具は經濟變動の分析にとりて有効ではなく、貯蓄投資其他の適當に組織されたる概念圖式を以て此に代ふべきである、と主張せられた。近時のウイタセル理論の發展の意義は此の概念圖式を明かにした點に

求められると述べられ、此意義を明かにする爲に、瑞典に於けるダヴィッドソン・リンダールのウイタセル批判とミユルダールの反批判の内容が説明せられ、この最後のミユルダールのウイタセル理論の再構成の内在的矛盾及び方法的困難が指摘せられた。

一、東亞民族の形成

高田保馬 教授

要旨——日支事變の意義づけは様々に行はれてゐるけれども、教授の見らるゝところは、此事變を契機として東亞民族が形成せられると云ふことにある。こゝに東亞民族とは普通の民族概念によるのではなく、ラテン民族・北歐民族等と云はれる場合の廣意義の民族概念に従ふ。日・滿・支の諸國民は同文・同種・同地域と云ふ三同の事實によつて、事實上、東亞民族として存立するが、この事實の一層の形成とさうして西洋資本主義の數世紀以來の東亞侵入を防衛することが、それ等の課題でなければならぬ、この課題は又世界的意義を有するものであつて、げに戰爭は事物の進行を短縮すると云ふべきである、と教授は主張せられた。而して東亞民族の形成の責任を持つ我國の對支工作は此目標に従つて樹立せられねばならないが、それは先づ以て政治的社會的でなければならず、經濟的にはプロツク經濟の形成でなければならぬ、所謂文化工作は東亞民族結束の發展に従つて自から意識せられるに至るであらう、と述べられた。報告後それぞれに就いて質疑應答や見解の披瀝が行はれ、九時五十分閉會。來會者——高田・沙見・石川・谷口・蛭川・大塚・中

川・柴田・堀江・中谷の諸先生、青山・出口・菊田・青盛・柏木・井上
(殿)・吉川・三谷・山本・石田・西藤・澤崎・鈴木・堀江(英)・馬場の
諸氏。

○會員勸靜

同好會

○作田先生送別謝恩會 十二月十三日(水)午後六時より樂友會館にて開會、作田先生、大塚、堀江、佐波諸先生、學生三十六名出席。定刻過ぎ大塚先生の開會の辭があり、續いて會食に移り、終つて學生代表の送別謝恩の辭が述べられた。更に學生有志の挨拶、堀江、佐波兩先生の挨拶があり、最後に作田先生は回想談及び渡滿後の抱負を語られた。終始先生を御送りし、且つその行を壯にし祝賀する氣分が溢れ、學生として恩師に訣別するにふさわしき有意義な會であつた。萬歳を三唱して會を閉ぢたのは九時であつた。

○昭和十三年度豫饌會 十二月十六日(金)午後五時半、學生集會所に開會、石川、蜷川、中川、大塚、柴田、中谷、佐波諸先生學生三十八名出席、先づ學生委員の開會の辭に始まり、高田會長代理石川教授より長時間に亙る卒業生に與ふる御言葉あり。終つて直ちに會食。二回生委員の送別の辭に應へて卒業生代表の謝辭あり。有志歡談に入り、諸先生方より新卒業生激勵の辭あり、又學生有志交々起ちて謝辭を述べ、豫饌會として珍らしく高潮せる氣分が横溢した。大塚先生の開會の辭により散會、時に九時。